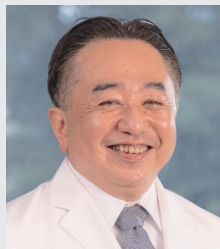


内視鏡・超音波診療部

スタッフ紹介



部長
たかぎ ともひさ
高木 智久

(内視鏡学・
消化器病学
教授)

副部長 (超音波室長) やまの てつひろ 山野 哲弘 (感染制御・検査医学教室/
内科学教室循環器内科学部門准教授)
講 師 (内視鏡室) よしだ なおひさ 吉田 直久 (内科学教室消化器内科学部門講師)

私たちの業務

◆ 内視鏡室 (内視鏡・超音波診療部) の業務について

内視鏡室では、食道・胃・十二指腸・大腸を対象とした上部・下部消化管内視鏡検査・治療をはじめ、胆道・脾臓領域の内視鏡検査・治療まで幅広く対応しており、年間約9,000件の内視鏡診療を行っています。胆膵内視鏡は、放射線科と連携し放射線部でも実施し、また消化器外科や耳鼻咽喉科とも連携し、負担をできる限り軽減した手術室での低侵襲治療にも積極的に取り組んでいます。

昨今の内視鏡機器の進歩に伴い、最新の細く高画質で操作性に優れた内視鏡を用いることで、精度の高い診断と安全な治療を実践しています。そして、鎮静・鎮痛薬を適切に使用し、苦痛の少ない内視鏡検査を心がけています。また、細い経鼻内視鏡を活用したり、大腸内視鏡検査では独自の工夫で洗腸剤を少なくし、検査の負担軽減も行っています。加えて、放射線科と連携し、大腸内視鏡検査が困難な患者様に対しては、負担が少ない大腸CT検査も実施しています。

上部・下部消化管内視鏡では、最新のLED内視鏡システムと内視鏡AIを導入し、LCI、TXI、BLI、NBIといった特殊観察モードを活用することで、病変の見落としを防ぎ、より正確な診断を行っています。さらに、拡大内視鏡観察を組み合わせることで、微細な病変の質的診断にも対応しています。小腸を観察するダブルバルーン内視鏡やカプセル内視鏡、消化管壁や周囲臓器を詳しく評価できる超音波内視鏡 (EUS)、胆管・膵管内で観察や治療を行う特殊内視鏡など、最新機器を幅広く導入し、消化器疾患全般の診断・治療を行っています。特に消化管腫瘍に対する内視鏡治療に力を入れており、早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌、十二指腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) は全国トップクラスの治療実績を有しています。

さらに、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対する内視鏡診療にも注力しており、迅速な検査体制のもとで早期診断や病勢評価、再発予防に取り組んでいます。

◆ 超音波室 (内視鏡・超音波診療部) の業務について

超音波検査の応用範囲はあらゆる領域に拡大されています。現在超音波室は9室で構成されており、Room 1~4が心臓、血管超音波用、Room 5~9が腹部、泌尿器、体表用に使用されています。現在10台の超音波診断装置が稼働しており、多くの科の医師によって毎日検査が行われています。超音波検査件数は増加の一途をたどっており、年間の超音波検査回数は総計13,000件を超え、医師だけでなく臨床検査技師による検査も導入しています。心臓部門では通常の経胸壁心エコー図検査に加えて各種負荷心エコー図検査、さらに年間約500件の経食道心エコー図検査を最新の三次元超音波装置を使用して実施しています。腹部一般用のすべての超音波装置に、臓器血管の描出が可能なドブラ装置が搭載されています。併せて、臓器や腫瘍の硬度測定が可能です。さらに、2020年度からは、RVS (Real-time Virtual Sonography) 下ラジオ波焼灼術も行っています。超音波検査はきわめて簡便で身体にまったく負担がなく、多くの疾患の診断や経過観察に利用されており、現在の社会的ニーズに最も合った検査法と考えられます。今後もその需要は一層拡大するものと思われ、スタッフ一同は超音波診断技術の一層の向上に努めています。

最先端の診断・治療機器、新しい手技を積極的に導入し、医師・看護師・内視鏡技師が一体となって高度な医療を提供しています。

府立医大 内視鏡・超音波診療部 超音波室 TEL 075-251-5744
同内視鏡室 TEL 075-251-5644